

# 樹医からのアドバイス (Vol.10)

～西洋ベニカナメモチ (レッドロビン) の病気～

出雲市樹医センター

樹医 渡部 勝

最近、生垣でよく植えられている西洋ベニカナメモチの病気について説明します。

## 【ごま色斑点病】

出雲市内でもよく目にする西洋ベニカナメモチ、近頃おかしいなと思いませんか？

春には垣根が真っ赤に燃えるほどの美しい西洋ベニカナメモチがだんだんと弱ってきて最後には枯死してしまう病気、原因の一つとしてごま色斑点病があります。

## 【病気の特長】

4月下旬頃より当年葉の表面に紅色の小班が多く現れ、発病は秋まで続きます。やがて斑点は灰褐色の小さな丸い斑点に変わりやがて落葉します。

この病気はシャリンバイ、カリン、びわ等バラ科ナシ亜科に属する樹木類に寄生するカビによっておこる病気です。

## 【防除の方法】

被害葉が伝染源となるので、被害枝や落葉はできるだけ早く集め焼却することが望ましいです。薬剤散布の例としては、トップジンM水和剤の1500～2000倍液を、展葉前の3月初旬から2週間間隔で2～3回散布すると効果的です。

なお、この病気は養分が少なく、かたまりやすい真砂土などに植えられた木に多発するようですから、毎年有機肥料を寒肥として施用することをお勧めします。



ごま色斑点病の症状